

大工・工務店

地産地消に取り組む



有限会社岩木建設

- 小川様邸
- 職人祭り
- 『いわ木の家』セカンドハウス

株式会社大山建工

- Y様邸
- 三沢の家

有限会社 キーポイントホーム

- 苫米地様邸
- 木村美津子様邸

企業組合県木住

- 小堀晃平・祥子様邸
- 齋藤峻・麻貴様邸
- アーバタウン造道
- 佐藤時彦代表の現場日記

チーム県産材

- 感謝の集い『緑むす日』

有限会社大坊建設

- 柳谷様邸

有限会社 岩木建設



庭にテニスコートのある家

「大工工事のみで3ヶ月かかった」というだけでも建物の大きさが推し量れる小川様邸。平屋で、間口が実に11間(約20m)もあり、床面積は約62坪。撮影するカメラは広角だが、家の敷地に面した道路の向こう側からでないかと家全体が収まり切らない。取材アポは午後2時。立冬を過ぎ、午後の陽がもう傾き出しているので外観を先に撮影させてもらおうとインターホンを押した。「どうぞどうぞ」とご主人が快く応じてくれた。撮影していると、玄関ドアが開き、「何かお手伝いすることはありませんか」とご主人。――声かけ一つで人の心はほぐれるものだ、と実感しながらシャッターを切っていた。



ユーザー訪問

小川 様邸

七戸町天王

2023年10月竣工

■床面積/平屋建て 62.37坪(206.61㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(床、柱、梁、天井、一部外壁、格子)、ケヤキ(上がり框)。

床も天井にもスギ

お施主様はご夫婦で歯科医師だと(尚)岩木建設から聞いていた。取材相手が医師となると、緊張するのが正直な反応だろうけど、「何かお手伝い……」

とご主人の先生がかけてくれた一言で緊張がほぐれた。気さくな先生のようなだ。

間口11間の、右端のシャッターが下りている所が車庫。車2台分ある。その手前の公共道路に面したコンクリートスペースも広く、優に10台分はありそうだ。建物の裏に回って、さらに驚いた。そこもまた一面にコンク

リートが打たれていて、家の玄関前のスペースよりも広い。会合か何かで医師たちが集まるための駐車スペースなのだろうか？

取材に、岩木勝志社長と専務と共に玄関に入る。玄関もまた広かった。ケヤキの上がり框。床のスギ床は厚みが3cm。天井にも清々しいスギ板が張られ、天井をくり抜いたトップライトからの明かりがまるで木漏れ日のようなだった。「凛とした佇まいで、旅館みたいですね」と専務が見回す。隣に続くシューズクロークからも玄関ホールに上がれるので、玄関が



旅館の雰囲気を出し出す玄関ホール



床一面、天井一面にスギ板が張られた木の空間のリビング



リビングとひと続きになっている広々としたキッチン

2つあるようなものだ。

ホールの左側に建つスギの格子戸。はめ込まれたガラス越しに見える廊下が奥へ伸び続け、旅館の雰囲気醸し出しているのだ。

玄関ホールを中心として、正面に和室の客間。その右手に子供部屋が2室ある。ホールの左側、格子戸が生活空間の入り口になっていて、すぐ右手がキッチンだ。対面式のキッチンの前に食卓テーブルを据え、隣にはソファが置かれたリビングが続く。ソファの前の壁面に設置されたテレビの大きな画面が、シア

タールームを想わせる。床一面、天井一面にスギ板が張られたこのLDKの木の空間もまた広角レンズに入りきらない広さだ。廊下の奥には先生の書斎と、隣に主寝室。各部屋とも南向きに並び、庭の向こうに陽を遮るものもなく、離れたところには雑木があり、採光もロケーションも良い。

ダイニングテーブルに小川先生、奥様、岩木社長、専務と5人が向かい合って座った。まずは庭の広いコンクリートスペースの用途から伺った。

ご主人の話 (笑って) 子供たちの遊び場ですよ。息子が中学生と小学6年で、バスケットボールをしたり、バギーで走り回ったりね。

——庭にテニスコートのある家”ですね。土地の広さは何坪ですか。

ご主人の話 約300坪です。人伝に売地の情報を得ました。すぐ近くに小学校も中学校もあるし、道の駅の隣のイオン



玄関正面の和室。畳と障子とスギ板の天井との調和が落ち着きをもたらす

まで自転車で10分もかからないし、土地はここにしようとして決めて、並行して工務店探しを進めました。

——家を建てる以前はどこにお住まいに？

ご主人の話 病院ですよ。七戸町の病院（『小川



歯科』の2階です。建てたのは東日本大震災があった2011年で、その2階に家族4人で住んでいたんです。4人暮らして狭かったところに、今から3年前に娘が生まれて、そのことが家を建てようと思った一番のきっかけですね。5人で暮らしても窮屈ではない、広い家を建てよう、と。病院の2階には「廊下」がなく、壁で仕切られただけですから常に隣の気配が伝わってきて、窮屈感がありました。廊下があれば部屋と部屋が離れるじゃないで

すか。家づくりの第一の要望は「廊下」があることでした。「廊下のある家」ですね。

——岩木建設との出会いのきっかけは？

ご主人の話 友人が紹介してくれた3社のうちの1社でした。紹介される前から岩木建設の場所だけは知っていましたよ。国道4号沿いに立っている展示場の看板（長期優良住宅展示場『いわ木の家』）は目に付きますからね。初めて見学に訪れたのは去年の9月でした。

岩木専務の話 事務所から、展示場を外から眺めている人の姿が見えたんです。それで、「ご見学されるのであればどうぞ」とお声がけしました。それが先生でした。

ご主人の話 玄関に入ってまづ感じたのが「木の匂い」です。木の匂いっていいですよ。気持ちりが和らぎます。それと、室内の雰囲気は柔らかさ、ですね。目に付いた「木の角」が丸くなっていたんです。柔らかさそう

にね。上がり框の角も、ドアの枠もそうです。丁寧な仕事をしているなって感じましたよ。

岩木社長の話 “面取り”のことですね。一手間をかけた仕上げのことで、敷居の角も、リビングの中木（床と壁との境目に張り付ける板）も面取りしています。見えがかり部分のほとんどがそうなので、その丸みが生かされて、室内に柔らかさをもたらしているのです。

ご主人の話 実は病院の2階に住んでいたときに、長男が木の角にぶつけてケガをしたことがあったんです。角は尖っていますからね。それで、角張っているか、丸みを帯びているか、といった細部の造りに目が留まるようになったんですよ。

——岩木建設の現場は見学されましたか。

奥様の話 八戸のお宅を拝見しました。吹き抜けに架かっていた梁が印象的でした。わが家は平屋で、吹抜けは取れないから、その代わりに天井いっぱ



トップライトから陽光が降り注ぐ廊下



一人時間。を楽しむ先生の書斎

いに板を張ってもらいました。木が好きだつてあまり意識したことはありませんでしたけど、見て、いいなあ、と思うのは好きだからなんでしょうね。

ご主人の話 岩木建設に決めたのは、木もそうだけど、結局人なんです。展示場で応対してくれた専務さんの、話しやすさ。いくら建物が良くても、応対者と相性が合わなければそこでストップですよ。専務さんとは何でも話せたもの。実

は、友人から紹介された3社のうちの1社が大手のハウスメーカーだったんです。最初から話が合いませんでした。「最先端の高断熱住宅だから価格も張る」と、二言目には「高断熱」「高性能」です。別にこっちは「性能」を買うわけじゃない。岩木建設さんで建てたこの家も、ちょっとエアコンをつけるだけで「すっぱり」と暖かいです。それと、岩木建設が一番近くの工務店だったから。なんでも「近く」が便利です。

大工の「いい笑顔」

奥様の話 現場の大工さんが話しやすかったですね。工事が始まって、様子を見に来たときの、大工さんの応対がすごく良かった。笑顔だし、話しかけやすしいね。大工さんって「どつつきにくい」イメージがあったけど、ぜんぜん違いましたね。私は茨城県で生まれ育ちました。今は青森県に住んでおりますが、実家の造りと同じ様にした

い想いがあり、アドバイスをもらいながら、内装仕上げの建具なども同じように再現して造って頂きました。それと、妻子さん(岩木建設の設計監理担当)との打ち合わせも楽しかったですよ。リビングの内装の色とか、キッチンや洗面台を決めるのに、妻子さんはとても細やかにアドバイスしてくれました。物事を一つ一つ決めていくやりとりが楽しくてね。

岩木専務の話 人と接するところに縁が生まれます。大工も人。社員なので教育しています。良い縁は、どんどん結びついていきます。人と話すことは最も大事なことです。から。

ご主人の話 私の知人のうち、最も多いのは患者さんです。患者さんと知り合いの人とかもいます。その繋がりです。土地の情報も得たし、工務店の紹介もそうでした。地域で人は繋がっているんですね。「縁」が引き寄せてくれた工務店が、岩木建設であつたわけです。

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



有限会社 岩木建設



職人さんたちと体験会 ものづくりを楽しもう

いわ木の家 創業69年

メガチュン初参加

作業場の窓からはみ出しそうなのこの巨大スズメ——もちろん本物ではなく、空気で膨らませるバルーンだが、本物そっくりで迫力がある。スズメ好きが昂じて社名も『(株)とり』の会社を立ち上げた「社鳥しゃちょう」さん(37歳)が、パラシュートに使う特殊なナイロンを縫い合わせて製造したもので、高さ6m、全長12mもあるまさにメガチュン。

このスズメと、岩木建設との関連は何か、岩木専務に聞いてみた。

「社鳥さんは愛知県の方なんですけど、2年前に、鳥に親しめる自然豊かな十和田市に移住してきたんです。奥様が八戸出身というつながりもあったようです。中古住宅を購入し、古いのでリフォームを依頼されたのが出会いです。鳥の知識が豊富

「皆様に支えられ創業六十九年……」と作業場に掲げられた横幕の上……窓から顔をのぞかせているのは、スズメだった。巨大なスズメのバルーン。——(有)岩木建設主催の「人と木」と触れ合う『職人祭り』が、10月(2023年)下旬に同社の敷地内で開かれた。住宅展示場『いわ木の家』が完成した翌年の2011年から感謝祭として始まり、今回で11回目。大工や左官など職人業者たちと、ものづくりが体験できる参加型イベントだ。受付に立つ岩木専務社長と専務が「いらっしやいませ!」。初参加の巨大スズメも出迎えた。

“人と木”と触れ合う

職人祭り



「大工DIY」のコーナーの木で作った人型ロボット



「左官やさん」の壁塗り体験コーナーは人だかりができるほどの人気

で、鳥関連の商品も製作しています。焼山に『鳥曇とりくもり』の店舗を構



塩ビパイプの水鉄砲を持ってポーズをとる男の子

えたので、PRに『職人祭り』に出品してみませんか、と」

会場の『左官やさん』の壁塗り体験コーナーに、人だかりで出来ていた。左官職人が、まず手本に練ったモルタルをコテにのせて壁の下から上へ塗り上げる。挑んだご婦人は、コテにのせたモルタルがこぼれ落ちそうになつたり職人みたいにはいかないけど、滅多に出来ない体験を楽しんでいるようだった。

塩ビパイプがテーブルに並んでいるテントは『水道やさん』。細いパイプや、一回り太いパイプ、継手もある。水道やさんがパイプにはめた器具をクルクルと回しているのは、カッターで切断しているようだ。何を作っているのか。「水鉄砲です」と水

道屋さん。手間がかりそうなので、後で完成品を拝見するのことにしよう。

『大工DIY』のコーナーも毎年人気がある。「あ、かわいい」とお嬢ちゃんが指差したのは、木で作った小さい人型ロボット(とでもいうのか)。2つの目が、よく見ると、木ネジなのだった。四角や丸棒の端材を活用して木のオモチャを作るのを、大工がサポートする。揺らすと黒目が動く目玉をボンドで貼り付けるなどの細かな作業は女の子のほうが得意のようだ。

男の本領は力仕事とばかりに、片足で角材をpushえ付けてノコギリで切る速さを競うのが「ノコギリタイムアタック」。大人は10cm角、子供は5cm×4cmの木材を切る。よいい、スタート。子供の部で、わずか4秒98の早わざで切り落とした子が1位だった。3位は28秒弱だから、いかに速かったか。ちなみに大人の部では16秒07が1位。

木を薄紙みたいに削ったカンナ屑でバラの花を作る『削り花』のテントでは、去年に引き続き北海道から駆け付けた岩木克仁かつひとさんが作り方の指導に当たっていた。岩木建設の3代目を継ぐことになっているご長男で、目下、岩見沢市の建設会社で修行を積んでいる。

『クロスやさん』のテントでは、イラストが描かれたクロスに扇形の型を当てて、カッターで切り取っていた。ウチワであった。切ったイラストをウチワの台に貼り付けるのだ。一方、長方形の物は、マスク入れ。完成した

オンリーワンのマスク入れを手にとった女の子が大事そうに胸に抱いていた。

『青森県産材の家』No.VIII(20

23年発行)の表紙を飾ったステンンドグラスの作品が、展示場2階の階段ホールに展示されていた。テーブルで女性たちがハンダ付けをして製作体験。オリジナルのステンンドグラスが部屋を彩るのだろう。

階段を上ってきた男の子が手にしていた物——『水道やさん』のテントで制作中だった塩ビパイプの水鉄砲だった。声をかけると、水鉄砲を正面に持ってポーズをとってくれた。

『職人祭り』を楽しみにしている岩木建設のユーザーは多い。毎年、続々とやってくる。10年以上も続いている、人と木の触れ合いの場だ。来年も待っているよ、と窓からメガチユンが見送ってくれた。

教室・作品展



毛糸のポンポンマスク(スズメ)



スタンドグラス



クラフトバンド



苔リウム作り



ティー・タイム

有限会社 岩木建設

防風林のスギ林に守られるように建っている、外壁に板を横張りにした三角屋根の家。12月16、17日（2023年）に（有）岩木建設が完成見学会を開催した『いわ木の家』セカンドハウスである。板壁の外観と、スギ林との取り合わせが、「森の中の山荘」を想わせる。期待を込めて玄関ドアを開けた。吹き抜けるリビングの正面に見える白壁に、褐色のエンジュの柱が立っていた。徐々に視線を上向けると、天井に小鳥が2羽留まっていた。



天然温泉付き
『森の山荘』のよう



小鳥のいるリビング

これ見てください、と岩木専務がスマホの画面に呼び出した写真は、今、目の当たりにしている柱の上に留まった2羽の小鳥であった。メジロだそう。写真は、つがいのメジロが、吹き抜ける窓からの陽射しとステンドグラスの光とに照らされた様子を撮ったものだ。柔らかく温かな陽射しをあびているメジロ。今にも動き出しそうなほどリアルだった。

「何日か前、見学会の準備をしに朝来たんです」と岩木専務。そしたら、「あの窓（と吹き抜ける）のフィックスを指して」からお

いわ木の家 セカンドハウス

七戸町太田
2023年12月竣工
DATA
■延べ床面積/32坪(105.99㎡)
■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(床、柱、梁、天井、一部外壁、建具)、ケヤキ(階段)、クリ(梁)。



日様が射していて、ちょうどエンジュの柱の上のメジロを照らす角度だったんですね、森で木洩れ日をあびる本物の小鳥みたいでしたよ」

リビングの壁にはもう1本の太い柱が立っている。これもエンジュで、太さが1尺（約30cm）。岩木勝志社長が指差して、「ここに龍と亀とラクダがいるんです。表面を削って現れた木目が、そう見えるんです」。見学者たちが近づいて、「あ、ほんとだ。いるいる」と声をあげた。

メジロもいれば、龍も亀もラクダいる——そんな大自然の中に身を置くようにスギの床に



木目が亀や龍に見えるエンジュの柱(左)

大の字に寝そべって、吹き抜ける高い天井を見上げながら、「自分の世界に浸れる」家にしたかったんです」と岩木専務は話す。

岩木専務のコメント

この建築地は以前から「どうすれば、ここに住めるのか?」と、とても気になっておりました。偶然にも売買の話が2年前に持ち掛けられましたが、衝動買いをしてはいけないと思い何度も足を運びました。出向くほどに欲しくなり、渋る主人に頼みこんで購入し、大工の空き具合を見ながらの建築となりました。

弊社の理念に「木が輝く匠の技でお客様の価値ある住まい

を造ります」と掲げており、構造体と内装材には落葉松・槐・杉・樺・柃・青森檜葉・松木・栗の8種類の木の個性が綺麗に表現されています。木に加えて青森ホタテ漆喰を壁に塗り、さらに心地よい家となりました。

白壁に立つ槐のつべんに留まったつがいのメジロに、吹き抜けるのステンドグラスから虹色の光が差し込み、想定外の驚きと感動です。壁のクロスは、キッチンに「大人かわいい」花柄を、クローゼットにマリメッコ(フィンランドのアパレル企業)の赤い花柄を貼り、見ると「よし、今日も頑張ろう!」と元気が湧き出てきます。

結婚して40年あまり、子育て



外はスギ林に、室内も木に囲まれた空間に

を終えて一段落し仕事をしている毎日。日頃、主人を優先的にした暮らしの中で、自分の好き勝手できる住処が欲しくなりました。自分の趣味やこだわりが形として現れると、心が満たされ体から活力が湧いてきました。窓から見える杉林のロケーションもよく、家の中で森の中にいるような不思議な感覚です。

家がパワースポットみたいでとても驚いています。こんな感覚を共感したいですね。元気になる、自然と笑顔も出てきますし、口数も増えてお料理もしたくなります。連鎖して主人も機嫌がよくなりました。あの渋って反対していた姿は何だったのかしら? と思っていますが、妻のわがままを受け入れて、家を造ってくれた主人に感謝しています。

■いわ木の家「セカンドハウス」

見学希望の申し込みは岩木建設まで。

TEL 0176-27-3259

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp



マリメッコの赤い花柄のクロス(セカンドハウスのクローゼット)